



2011年3月4日

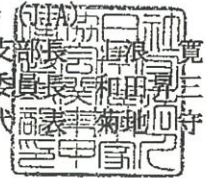
早稲田大学 総長 鎌田 薫 様

社団法人 日本建築家協会

関東甲信越支部

同 保存問題委員会

同 新宿地域会



早稲田大学文学部校舎の解体にあたっての要望

拝啓 貴学におかれましては、今日まで我が国の文化の発展と継承に主導的な役割を果たして来られていることに、心より敬意を表します。

さて、建築家 村野藤吾の作品である文学部校舎につき、当協会では3年半ほど前に、そのうちの低層棟は保存活用されるものの、他は建て替えられることを知った際、貴学の関係部署の方々のご好意により戸山キャンパス（ならびに修復後の大隈講堂）を拝見させて頂きました。

また、後日には当協会に建築学科の中川武教授をお招きして、今回の建て替えの持つ文化的・建築史的な意味を探る勉強会を催し、活発・真摯な議論を交わさせて頂いたところです。

この度、貴学のホームページを拝見し、その中の該当資料(*)にて、いよいよ村野藤吾の作品の一部が解体されることを確認させて頂きました。

(* <http://www.waseda.jp/bun/seikatsu/construction/>)

この機会に、上記の経緯を踏まえ、以下の要望3点をお届けし、ご高配をお願いする次第です。

1. 村野作品の実像を後世に伝えるためには、実物が保存されるのが本来であるわけですが、それが万策尽きて叶わないのであれば、失われる部分につき、映像や3次元データを含めた、考え得る最高レベルの記録保存と、意匠性の高い箇所部材保存とをお願い致します。
2. 低層棟に向かう戸山キャンパス全体のアプローチ、低層棟をくぐると現れる中庭、異なる高さの校舎の相互バランスとプロポーション、細部意匠の配慮、等々、キャンパス設計の空間的な構成や性格が温存され、建築家 村野の初期意図が継承されるよう、貴学としてこれまで大いなる努力を重ねて来られたことは拝察しますが、改築後にその継承が十二分に達成されるよう、実施設計・工事過程におけるさらなる工夫をお願い致します。
3. 建築のもつ文化的意義や建築家の使命、もとよりのこれらの擁護・顕彰は、歴史ある建築学科を擁する貴学の主眼の一つとする所と存じます。貴学そして日本が誇る建築家 村野の作品の解体・改築に伴い、今般の経緯と文化的所見を広く公開周知され、優れた建築が持つ社会資産としての価値に呼応した、最高学府としての説明責任を社会に向け果たし、貴学の見識を世に発信して頂けるよう、お願い致します。

なお、上記に関連し 建築家の職能団体として当協会に出来ることがあれば、ぜひ ご下命ください。

敬具

社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects

関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA 館
Tel.03-3408-8291 Fax.03-3408-8294